

内閣総理大臣 安倍晋三様
防衛大臣 小野寺五典様
外務大臣 河野太郎様
環境大臣 中川雅治様

「STOP！ 辺野古の海への土砂投入」署名

辺野古・大浦湾は生物多様性豊かな「命の海」です。マングローブ林、干潟、海草藻場、砂場、泥場、サンゴ礁が連続し、やんばるの森から流れこむ河川により豊かな生態系が作り上げられています。近年発見された巨大アオサンゴの群集や、日本では絶滅の恐れが最も高い哺乳類のジュゴンが生息します。確認されているだけでも絶滅危惧種 262 種を含む 5,300 以上の海洋生物が生息しています。埋め立て海域や周辺で見つかったオキナワハマサンゴやヒメサンゴなどの希少なサンゴ類も危機にさらされています。防衛省はヒメサンゴを残したまま土砂を投入し、オキナワハマサンゴについても移植前に護岸工事を進めているのが現状です。環境保全対策に関しては、沖縄県との事前協議が必要とされているのですが、無視されています。

辺野古の新基地建設予定地には多くの問題と矛盾があることがわかってきました。まず、大浦湾側の地質が軟弱地盤だということです。これは沖縄防衛局の地質調査で分かったことで、土の硬さを示す指標「N値」がゼロで、非常に軟らかい地質の地点があります。専門家は「マヨネーズ並みの柔らかさ」と表現し、大幅な設計変更を伴う地盤改良をしないと安全な構造物は建設できないと指摘しています。

また、辺野古・大浦湾には活断層が存在する可能性が指摘されています。たとえ地盤改良をしたとしても、活断層がずれ動けば地震が起こり、地上の軍事施設は破壊されかねません。万が一強い地震が起きた場合には、貯蔵されている弾薬や燃料が爆発あるいは海や周辺に流れ出し、地域の安全を脅かし、重大な環境破壊を起こす恐れもあります。

安全保障の問題という言い訳の下、基地が集中する沖縄では人権も憲法も守られない現実があります。これを放置することは、それ以外の地域で人権や憲法が守られない状況が起きることを容認することにもつながります。人道上の観点からも、辺野古新基地建設の強行は許されません。私たちは、辺野古・大浦湾の生物多様性豊かな「命の海」を未来につなぎ、人権や憲法を守るためにも、今すぐ海上工事を中止して、海に土砂を投入しないよう求めます。

【 請 願 事 項 】

辺野古・大浦湾の生物多様性豊かな「命の海」を未来につなぐため、
海上工事を中止して、海に土砂を投入しないよう求めます。

名 前	住 所

第二次集約 2018 年8月末日

呼びかけ団体 「辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク」「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」

集約先 〒162-0822 新宿区下宮比町3-12-302 辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク

FAX 03-5225-7214 取扱団体()